

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	海外フィールドワーク実習による互恵的国際協力の実践と教育推進				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学研究科・准教授	氏名	孫 暁剛
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学研究科・准教授	氏名	孫 暁剛

講演題目
海外フィールドワーク実習による互恵的国際協力の実践と教育推進
研究の目的、成果及び今後の展望
研究目的 今日、途上国の急速な経済発展と情報化に伴い、国際開発・援助のあり方は、従来の「先進国＝支援する側」「途上国＝受け取る側」という一方向的なモデルから、互いに尊重し協力し合う対等な関係へと変化しつつある。特に社会開発や教育・福祉の分野では、相互の社会・文化を尊重し、学び合う「互恵的」な国際協力が求められている。 しかし、大学において国際開発・協力に関する知識や理論を学ぶことはできるものの、現地の人々と同じ目線に立ち、共に考え協働する経験を得ることは難しい。そこで本研究では、海外フィールドワーク実習を通じて、学生が地域住民から学ぶとともに、そのニーズに向き合いながら互恵的な国際協力を実践的に学ぶ機会を提供することを目的とする。 具体的には、急速な経済発展に伴い都市化や貧富格差の拡大、自然環境や伝統文化の保全といった課題が顕在化しているケニア共和国において、これらの問題の現場を訪れるとともに、現地で活動する専門家や地域住民との対話や交流を通じて、互恵性に基づく国際協力の可能性について考察する。また、本実習の成果をもとに、海外フィールド教育の意義と方法論を検証し、本学の国際教育の推進に資することを目指す。 成果 2026年2月16日から27日までの12日間にわたり、引率教員1名と学部生9名の計10名で実施した。ナイロビ大学地理・人口・環境学部では、ケニアの歴史、自然環境、民族・文化の多様性、ナイロビ市の都市化に関する講義を受けた後、約20名の大学生とともに市内見学を行った。現地の学生との交流を通じて、日常生活や将来観、急速に発展するナイロビに対する認識について理解を深めた。キベラスラムのマゴソスクールでは、都市貧困層に対する教育支援のあり方やスラムの生活実態、住民のライフヒストリーについて調査を行った。また、アンボセリ国立公園および周辺のマサイコミュニティでは、観光開発と自然環境保全、遊牧民の生活文化、地域社会における相互扶助、伝統社会の近代化と学校教育という四つのテーマについてフィールドワークを実施した。 以上の実習を通じて、学生は途上国における貧富格差の実態を現場から理解するとともに、その対応としての教育支援や観光開発の可能性について考察した。さらに、経済開発にとどまらず、地域の自然・社会・文化の相互関係やその保全のあり方について多角的に学んだ。また、現地の学生や住民との対話を通じて、多様な価値観に触れながら、相互に学び合う互恵的な関係の重要性や協働のあり方について検討し、地域実践力を高めることができた。